全佛通信

三月号
発行所　全日本仏教会　東京都中央区築地三ノ一（本願寺内）電話（54）〇三一三
発行人　岩野真雄
編集者　高橋忠雄
印刷所　栄昌堂

全日仏は仏教徒全体のもの

――批判にこたえて――

全日仏が結成されてから既に四年の歳月が流れた。この間全日仏では全日仏でなければ出来ないと思われるような仕事もやつて来ている。もちろん全日仏自ら反省し改訂しなければならぬ点も多々ある。全日仏は改むることに決して吝かでない。

この頃全日仏に対していろいろと批判が加えられ、また再検討も行われているようだ。批判の一二に就いていうと、全日仏の枢要な問題にはノータッチで、たゞ上層機構の一二の人々に対する反論があり、またビルマ留学僧のテラワーダ仏教拡張の運動に対してなぜこれを援助せぬかなどの、問責論がある。新聞雑誌には掲載されていないが、仏連復活論めいた議論も若干ながらあることも伝えられている。

全日仏の上層部の人々に対する論難は、概していえば感情論でしかなく、全日仏の本質論ではない。可成り悪どい憎悪感をもつてした人物月旦風のものである。批評精神も低劣で、そこに高次的な建設意見は認めることが出来ない。露悪家の遊戯か、乃至は私憤を晴らす程度のいわゆる筆誅と称するものに外ならない。

ビルマ留学僧がテラワーダ仏教を日本に植えつけようという運動は一応敬意を表するが、これを支援しなかつたのは最初の出発点から空想的、というよりも山師的なケレンが多くて、国際信義を破るような結果を招来する惧れが多分にあつたからである。

全日仏はどこへも行かぬ。全日仏として与えられた職能を自覚しその目的に向つて一路邁進するだけのことだ。全日仏は日本仏教の総意の上に立つている以上、恣意的な独裁的な真似は許されない。仏斫復活論のごときは、その郷愁はさることながら、おおよそ神話的な黴の花としか思えないではないか。

われわれは、全日仏に対する純正の批判を希望する。ことに教界の全体を達観した上で、日本仏教の将来に希望をもたらしめ得るような、創造性をもつた議論を期待して止まない。何人も現実に固着し、一日でも姑息偸安を貪りたいであろうが、進歩を阻害し、発展を妨ぐるものゝこれより大なるはない。今や評者も被評者も真に目覚めて日本仏教再建に尽すべき時ではなかろうか。

―〇―

昭和三十二年度

釈尊降誕会（はなまつり大会）　全国的に一斉展開

全日佛各方面へ強力に呼びかく

全日仏では釈尊降誕記念日に因み昨年同様「花まつり委員会」を開催してその計画をねつていたが愈々具体案が決定し、去る廿八日の常務理事会、宗務総長会、同仏者会長会同等にかけた結果、全国に左記主旨を流し各方面の協力のもと釈尊降誕にふさわしい華々しい全国的行事が展開されるものと思われる。尚全日仏ではこの主旨を全国の宗派、都道府県仏教会長加盟団体特に仏青、仏婦等に全面的協力を要請し、各方面夫々独特の計画を立案中である。

記

花まつり月間各種行事

一、四月八日より五月八日までを花まつり月間と定め全国各地各団体で行われる花まつり諸行事に全一性をもたせるよう努力する。

1. 全日仏作製の教化資料の全国的配付。
2. 全国各地各団体の花まつりに全日仏会長メッセージを送る
3. 東京都を始め全国主要都市で自動車等による花まつり行進を行う。

二、国際親善花まつり晩餐会の開催

東京に於ては四月八日午後五時より日比谷に於て在日各国公館代表、在京各宗派幹部仏青仏婦等約三〇〇名の参加を得て国際色をもつた慶祝晩餐会を開くことに決定全国各地に於ても七日八日を中心に右の様な会合が続々行われる事を望んでいる。

三、花まつり記念講演と映画の夕

四月中旬東京を中心に全国各地で行い、釈尊降誕の現代的意義を広く知識人に訴えんとするものである。

四、セイロン文化大臣一行（訪日文化使節団）歓迎仏教徒大会の開催

四月中旬東京築地本願寺に於て

五、学生英語弁論大会の開催

花まつり月間中に各大学々生による「現代に生きる仏教」（仮題）を主題とする英語弁論大会を開き仏教に対する関心を昂める。

六、高校学生弁論大会

五の主旨と同じく全国高校生による弁論大会を開催する。具体化に付ては仏教主義学校と連絡し本会より補助金を贈る。

七、この他仏婦による女子刑務所訪問、仏青が中心となる花まつり写真コンクール等も準備されている。

八、更に四月二日の図書館記念日には「釈尊に学ぼう」という形で推せん図書の制定、図書館への協力依頼を行うが、各地各団体に於てもその地区の図書館へ協力交渉方を願いたい。

九、更に植樹デー（四月三日）に各寺院で花まつり記念として「草木を愛そう」という運動を興される様

十、四月廿一日の幼稚園記念日等を利用して全国幼稚園保育園に於ては花まつり記念行事を全国的に展開される様希望する。

東京の花まつり行事案

全日仏、東京仏教団、日本花まつり会主催の花まつり行事は種々計画されて昨年以上に豪華けんらんたるものが展開される予定であるがすでにほゞ決定されている行事は左の通りである。

1. 花まつり前夜祭　四月六日昼夜二回

千駄谷東京都体育館に於て一回約一万人の青年大衆を対象に行う主催日本花まつり会でニッポン放送、読売新聞社後援、内容としては花まつりグランドショウ「花の祭典」と銘うつてトニー谷、楠トシエの司会で行う予定。

2. 花まつりの夕べ。七月目黒の椿山荘（東京仏教団）八日日比谷レストラン朝日（全日仏）その他各区

3. 花まつり大会

才六回国際親善花つり大会　日比谷公会堂

日本花まつり会の主催で才一部式典、才二部民族舞踊と音楽（日本、中国、朝鮮）

東京全地区仏教会主催の大会（詳細次号）

京都の花まつり行事

1 市民花まつり讃嘆法要、当番天台宗各派、四月八日（月）午後二時、於霊山観音。

2 花まつり市中白象大行進四月八日（月）午後十二時半東山七条妙法院を出発機動部隊により霊山観音までパレード到着二時の予定。

3 花まつり初誕生児招待　於動

物園
4 子供花まつり大会　イ、動物園花まつり。ロ、大谷クラブ主催子供花まつり大会。
5 青年花まつり。京都中学高校仏教青年会連盟主催。
6 幼稚園花まつり。仏教幼稚園協会主催。
7 各宗本山、各支部（組）名寺院花まつり。四月一日―七日
8 社会福祉施設児童花まつり大会。
9 各施設慰問巡回（新聞社、警察等）
10 甘茶風呂（市内各浴場）四百二十軒。
11 花まつりラジオ放送（NHK・NJB・ABC・KHK）
12 講演、映画、音楽、バレー大会
13 生花展　四月一日―八日於霊山観音廻廊
14 茶会　四月六日藪ノ内、四月七日表千家、四月八日裏千家。於高台寺
15 花まつりバザー園遊会
16 街頭花まつり―街頭移動花まつり展―街頭灌仏、童話、紙芝居、人形劇
17 花まつり展（釈尊伝、花まつり行事に関連ある古文化財等の展覧）各宗管長書画展示会、花まつり写真展
18 俳句、川柳、謡曲会　四月六日　八日於高台寺
19 学童書道絵画展　四月一日　八日　於霊山観音廻廊
20 花まつり音頭講習会
21 花まつり工作講習会　二月二十三日　於仲源寺
22 花まつり晩餐会　四月七日於京都商工会議所講堂
23 百貨店、商店街、京都駅頭花まつり装飾、ターミナル吹流し
24 教材発行、仏旗、花御堂、誕生仏、無憂華、アップリケ、バッヂ、ポスター、カード、リーフレット、花まつりケーキ
25 花まつり号新聞発行
26 ヘリコプターにて散華

全宗団加盟各宗団の総力を結集して

新年度飛躍の準備成る

全日仏に於ては夙々昭和三十一年度を終り、三十二年度を迎えるに際して過去一ヶ年間の同会の運動を回顧し、特に組織面、教化面経済面から如何なる隘路に当面したか、又今後の仏教運動をどんな目標にしぼるべきか等々反省する処は卒直に反省し、且改め開拓すべき面は更に積極的に開拓し、打開すべく事務局各部夫々の立場から研究討議を進めて来たが、漸くその整理も一応見透しがついたので、二月下旬より三月にかけて夫々規約に則り、常務理事会、理事会、全国宗務総長会同、同府県仏教会長会同、構成団体責任者会同等を開き、新年度の予算審議、運動方針、事業計画等につき篤と懇談討議を遂ぐべく目下準備中である。

殊に昭和三十一年度は南方仏紀二千五百年に協賛したる為インドネパール、セイロン国等への日本仏教親善使節団の渡航が相次ぎ、之に比して国内運動がいさゝか軽視された嫌いもあつたし且内外の諸問題で全日仏の意図が故意にまげられて流布されたという点もあつたので之等に対する正しい説明討論等も行われ、非常に活潑な論議が行われた。然し乍ら何人も現代に於ける全日仏の使命と必要性を認めない者はなく、如何にして全日仏をより活潑に且本格的活動に入らしめたら良いかという点に於ては、何れの会同に於ても意見の一致を見たので、反つて雨降つて地固まるの例で、全日仏の財団法人設立、役員の更新等を断行し再出発を着々準備中である。従つて新年度の活躍が大いに期待されている。

記

一、全国常務理事会、二月二十八日　十時
一、全国各宗々務総長会同、二月二十八日　十三時
以上何れも京都東本願寺宮御殿
一、全国都道府県仏教会長会同　三月八日　十時　東京築地本願寺
一、三月九日　十時　加盟団体責任者会同
一、三月廿七日　十時　常務理事会、十四時　理事会
尚右各会合に於て討議さるべき主要なる案件は大体左の通である
1. 昭和三十二年度予算編成に関する件。
2. 全日仏を財団法人として再出発せしむるの件。
3. 宗教法人法改正に伴う諸般の件。
4. 花まつり月間設定に関する件
5. 才五回全日本仏教徒会議開催の件。
6. タイ国仏紀二千五百年記念祭に代表を派遣するについて。
7. セイロン国舎利弗、目蓮聖骨奉納堂建立に協力することについて。
8. 仏紀二千五百年記念事業として記録映画「釈迦をたづねて」の製作に協力することについて。
9. その他。

全日仏新年度の躍進を期して

全国宗務総長、常務理事会開かる

去る廿八日京都東本願寺で

全日仏本年度最後の常務理事会は去る二月二十八日午前十時より又午後一時よりは全国宗務総長会同が夫々京都東本願寺宮御殿で開かれた。朝からみぞれまじりの寒天に全身の寒さに耐えつゝ両会議共約三時間に亘る各議題に関して熱心な研究討議が続けられた。特に本会議は全日仏の本年度行事並にその経過を省みて新年度に対処せんとするものだけあつて、左記各問題につき当局の説明に対して一々鋭い批判も加えられて、なごやかな内にも真剣な協議が進められた。殊に新中国訪問の代表者決定はさきの詮衡会議の結果を呑むか否まぬかを各方面で注目して居り報道関係者も十数人つめかけて之が発表を待期していた。

協議決定事項

一、中国使節団代表決定
希望者四十一名の処去る二月十八日の詮衡委員会で慎重詮衡の結果を更に討議の上、左の十五氏を才一次発表として決定するに至つた。（順不同）
尚三月初旬中国仏教協会からの正式連絡により右大会は都合により八月挙行することに変更された。

1 高階瓏仙（曹洞宗管長）
2 増田日遠（日蓮宗身延山法主）
3 佐々木泰翁（全日仏理事長）
4 渡辺真海（浄土宗々務長）
5 竹村教智（真言宗智山派総長）
6 永野鎮雄（真宗本願寺派総務）
7 竹田淳照（真宗大谷派教研主事）
8 中野義照（高野山大学々長）
9 山田無文（花園大学々長）
10 牧田諦亮（浄土宗本派）
11 半田孝海（天台宗善光寺、長野県仏教会長）
12 五十嵐賢了（東京仏教団）
13 菅原恵慶（曹洞大師奉讃会長）
14 船口暉子（全日仏婦事務局長）
15 中濃教篤（日中仏教交流懇談会）

以上十五名

一、昭和三十二年度予算編成について
総額を九百万円とし各宗負担金は昨年通りとして承認、細部は次期理事会迄に事務当局で充分検討上作成すること。
一、宗教法人法改正に関する問題
曩に決議した通り東西両地区に速かに小委員を任命、夫々の専門家に原案作成を依頼し、各宗派の協賛を求めて速かに原案を決定する事。
一、本会法人格（財団法人）取得について
本会を財団法人として設立することゝし、所定の手続を経て実施することに決定す。
一、花まつり月間について
別記花まつり委員会の計画案を全面的に諒承す。
一、才五回全日本仏教徒会議開催について
奈良東大寺に於て開催することゝし、開催の時期については事務当局に一任することに決す。
一、仏紀二千五百年記念事業として記録映画「釈尊をたづねて」の製作に協力することについて
別紙企画書に基き全面的に賛助すること。但名称を「アジア地域仏教遺蹟並仏教美術学術調査」として打出すこと。
一、タイ国仏紀二千五百年記念祭に代表を派遣するについて
タイ国の招請により代表四名を来る五月に仏教代表として派遣すること。但その詮衡は左記五氏を詮衡委員として委嘱し成る可く速かに詮衡を行うこと。

一、セイロン国舎利弗、目連聖骨奉納堂建立に協力することについて

日セ親善の立場より別紙建立計画書の趣旨に賛同し、建設資金案壱千万中弐百万円を本会の責任に於て賛助することに決定。

一、その他

◎出席常務理事

宮谷東本総長、田丸西本総長、竹村智山総長、神原天台総長、倉持（埼玉）会長、小川（京都）会長阿部事務総長、岩野、小笠原局長各部長、

◎総長会同出席者（受付順）

臨済永源寺派最上泰山、同天竜寺派横井鶴洲、同南禅寺派矢野康州四天王寺塚原徳応、時宗山羽学竜西山浄土宗丹羽賢竜、同禅林寺派五十嵐準良、真言宗御室派佐藤朗義、同泉涌寺派森岡善暁、法華宗本門流代寺内泰徹、華厳宗橋村英祐、妙見宗柳生昌泉、真宗木辺派仲井義照、法華宗陣門流中沢日襄真言智山派竹村教智、修験宗宮城信雅、真宗高田派多羅尾光照、真宗大谷派宮谷法含、本派本願寺派田丸道忍、天台宗神原玄祐、浄土宗本派代香月乘光、興正寺派直井宏之、曹洞宗佐々木泰翁、阿部事務総長、岩野、小笠原局長、ほしのぼり、高橋、別所、柳部長。

……新年度に開展する……

二大行事基本構想成る！

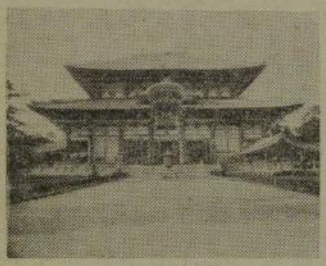
仏紀二千五百年を祝う行事はセイロン、インド、ビルマ、タイ、中国を始め各国に於て夫々歴史的行事が盛大に行われ我国からも三笠宮殿下を始め仏教界代表が夫々正式代表として派遣せられ南北仏教交流親善は空前の盛況を見せたのであるが、全日仏ではこの際各国の好意に対して日本仏教の誠意を示すべく昨年当初以来着々協賛記念行事を遂行して来たが、今回昭和三十二年度事業として、左記二大行事を企画して東南亜各国との親善の実をあげると共に、日本仏教の正しい姿を南方仏教諸国にも理解してもらうべく、一大決意を以て計画している。この二大行事は従来の何れの行事よりも内容規模、予算等に於て各方面の注目を惹いている。

アジア地域仏教遺蹟

仏教美術學術調査団の派遣

1. 調査目的

仏紀二千五百年に当り調査団は釈尊の生涯とその影響並に発展、仏教の現代に生きる姿を、アジア全域にわたる代表的な仏教遺蹟を中心に夫々の民族がもつ優れた独特の文化を詳細に調査研究し、仏紀二千五百年の記念事業として、国際的に発表せんとするものである。尚調査に関してその状況を明確に記録する為に撮影技術者を同行させ、調査資料の記録に万全を期し、調査資料とその結果は国内は勿論海外にも発表する予定である。



【写真】才五回大会開催予定の奈良大仏殿

2. 調査内容

東洋文化の源泉である仏教及び仏教文化を四大仏蹟を中心に各々の民族がもつ諸仏蹟、遺物、風俗等を南北に亘り、その発展経路を辿り乍ら、そこの優れた文化を現代との関連性のもとに具体的に調査する。

3. 調査予定地

ネパール、インド、パキスタン、カシミール、セイロン、シッキム、ビルマ、タイ、カンボヂヤ、インドネシヤ、中国、日本の各主要仏蹟数十ケ所

4. 調査方針

調査期間は四月初旬より約一〇〇日間七月下旬調査完了予定。

調査団としては壬生台舜氏（大正大学教授）を団長として金子良運（文部技官、東京国立博物館員）坂東性純（東大印哲研究会員）桑木道生（全日仏嘱託）　瀬川順一（撮影技師）東原　潔（撮影技師）の五氏とし、三名宛二班に編成する。

以上の企画のもと目下外務、文部両省を始め関係各国大公使館等へ猛烈なる運動を開始しているが各方面の予想以上の好意と理解のもと、着々計画は進行し日一日と具体化している。

特に期待されるのは本調査団に随行する撮影班の記録映画はシネスコでやる予定で桑木道生氏が中心となつて計画を進めているが、プロデューサーとして本木荘二郎氏、脚色は山本嘉次郎氏、編集は黒沢明氏が担当する事に決定したので、之が完成の上国内は勿論国外で公開される場合は各国に対して相当のセンセーションを惹起するものとして今から大いに期待されてよかろうと云われている。

才五回全日仏徒会議開催

全日仏主催の全日本仏教徒会議は回を重ねること四回、一年毎に内容を充実し参加者も四百数十名になん〳〵とし、全国男女仏教徒僧俗を問わず参加して各宗本山たる聖地のふんゐ気にふれて大いに語り且懇親の実をあげるという行事は日本仏教の年中行事とまで云われるに至つた。

才五回大会は前大会で善光寺と内定されていたが善光寺側の引受けるところとならず、その後東大寺当局と再三接渉の結果、東大寺筒井管長、橋村執事長を始め山内重役の特別の好意により遂に才五回大会を快諾され、常務理事会、宗務総長会議に於て討議の結果来る九月上旬決行する事となつた。

尚この大会に当り従来とその様式を変え、昨年以来仏紀二千五百年記念に招請を受けた各国代表を本大会に招請し、会期中の一日乃至二日をこれら外国代表を中心に歓迎国際仏教会議をもち、大いに従来の好意に対し感謝すると共に日本仏教の正しい姿を認識してもらうべく、目下事務局に於て大童で企画準備中である。何れ国際委員会、常務理事会等を経て新年度初頭に詳細発表される事と思うが右計画が発表されんか、全国的に相当以上の関心をまき興し、仏都奈良という恵まれた会場と共に予想以上の参加があると思われる。

尚会場としては奈良東大寺、県公会堂とし、奈良近郊の古寺仏像等の巡拝も計画されている。

セイロン国際仏教徒会議へ

仏教学者五名派遣

タイへも四名が出発

来る五月三日から十七日までセイロン国に於て仏紀二千五百年の最終記念行事として、国際仏教徒会議が開かれる事になり、過般セイロン大使館より文部省、外務省を通じて日本仏教学者五名の派遣方依頼があつた。全仏では一月十八日の同学者派遣詮衡委員会にて協議、其後も関係方面と協議熟慮の結果、下記の五名の決定を見たので取急ぎ関係各省へ通達した。

派遣仏教学者五名は、花山信勝（東京大学名誉教授）水野弘元（駒沢大学教授）久保田正文（立正大学教授）佐藤密雄（大正大学教授）北畠教真（浄土真宗西本願寺派総務）の五氏である。同会議は世界の仏教諸国から仏教学者が集つて現代仏教について討議するものであり、我国としては特にセイロン国と協力の下で英文仏教大百科辞典を編纂中であり、日本側の花山同辞典編纂所長の渡セについては各方面に大きな期待が寄せられている。

タイ派遣代表も決定

なおタイ国に於ても五月十日から十日間バンコック市を中心に全国的に盛大なる仏紀二千五百年記念祝典が開催される事になつてをり本邦からも四名の仏教徒が招請されたので、過般三月七日本会で開催された詮衡委員会に於て左記の四名が決定し、直ちに関係各省へ報告した。即ち

一、大谷光紹（東本願寺新門主）
二、工藤義修（西本願寺総務）
三、重永　潛（全日仏常務理事）
四、藤井真水（高野山真言宗）

なお上記四代表は来る五月八日頃空路羽田から出発する予定で、同国滞在中はタイ国政府の賓客として待遇される事になつている。又、同時期に上記アジア地域仏教遺跡撮影隊も現地で同代表団と合流し祝典の模様などをフイルムに収めることになつている。

セイロン国仏陀祭に使して

今回私共九人の者はセイロン国仏紀二千五百年記念祭（ブッダジャヤンテイ）に国賓として且つ日本仏教代表として招請をうけた光栄に感謝しつゝ、去る一月十日夜羽田空港を発ち十二日午後一時セイロン政府高官、日本大使館員等に出迎えられてコロンボ空港に着きました。直ちに車で総理大臣邸に入り、旅装を解く間もなく結城大使の案内でバンダラナイケ首相を私邸に訪問して御挨拶をしました。それから廿四日日本へ発つまでの二週間この国で国賓としてうけた数々の好遇は全く感謝そのもので、私共としても古今未曾有の経験でありました。余り当局が大切にしてくれるので、私共のスケジュールは少しの休みもなく廿四時間引続き睡眠と食事時間とを除く他行事で埋り、且若い武官がつききりで待遇してくれるので、反つて目まぐるしく且緊張の連続で流石の私共もいさゝか閉口の有様で嬉しい悲鳴をあげていた者もあります。

到着以来数々の行事や会合は省略することゝし、愈々十五日待望のブッダ・ジャヤンティ、ケラニヤ・テンプルで執行されることになり、外国代表としては実に唯一の私共が国賓として招かれた模様に就て申上げたいと思います。

ケラニヤ・テンプルと云う寺院はセイロン国に於て最も古く歴史的に有名な大寺院であり、更にこのお寺の主管者はシリシ・バリ長老で、この比丘はセイロン国全体の尊崇の的であり、特に現在のバンダラナイケ首相就任に当つては、実に積極果敢に推薦運動をやりとげ、約一万二千の比丘衆を結集して全国的に世論喚起に努めた結果遂に反対勢力を駆逐して、現首相派をして大勝利に収めしめた大功労者であります。この長老が司会者として、僧侶五百名、民衆約三万の人々の立会のもと、午前九時より簡素乍らも荘厳なる式典はくり広げられました。バ首相・セナナイカ商工大臣、ジャヤルデナ保健大臣（婦人）クルップ文化大臣等の大演説があり、之に対して日本石橋総理大臣のメッセージを長井博士が、全仏大谷会長のを私が、全日仏婦大谷智子会長のを広瀬夫人が夫々代読して大いに面目を施しました。

式典は一応終りましたがセイロン独特の民族祭典としては、その夜から翌朝にかけてくり広げられたテラヘラ祭に尽きるでせう。之は云はば一大仏教パージェントで百余頭の大象小象が鮮かな満艦飾をし、群衆又手に手にセイロン国旗や六色の仏旗をヒラ〳〵させ乍ら、ケラニヤテンプルに参拝に向う一大仏教行進であります。この行列は夜になるにつれて愈々熱狂し、午後十一時頃から約十万の民衆がきらめく灯明、民族色豊かな音楽、群衆のざわめき、之らが混合されて終夜尽きない大法悦境を創り出し、全く極楽浄土さながらの壮観さ、筆舌に尽し難い風景と云うより他わありません。おそらく私の一生を通じて歴史的印象を止めたことになつたろうと思いました。こうした盛儀に列し得た身の幸福をしみ〳〵大聖釈尊に合掌礼拝しつゝ午前五時頃宿舎へ引上げて参りました。

その後政府高官、各大学責任者等の祝宴、講演会に記憶し切れぬ程の好遇と機会に恵まれましたが以上の滞在期間を通じて私の特に感銘した事は、同じ南方仏教とは云ひ乍らビルマ、ネパールのそれと異りセイロンに於ては単なる戒律仏教としての僧侶仏教に非ずして、民衆の生活の中に脈々として生きて居り且僧侶がそれらの実践指導者として厳然たる地位を確保していることであります。例えば先に申上げたクラニヤ・テンプルのシリシ・バリ長老は現首相バンダラナイケ氏を擁するに際して、烈々たる民族主義的情熱をもつて一万二千の僧侶に指令し、街頭に寺院に、家庭に、時と処とを問わざる一大推薦運動を展開し、表面は大河の流れの様な静けさを保ち乍らも愈々最後の段階に至つては一国の識者の予想を全く裏切り、その議席数を与野党その立場を逆転させ、遂にバンダラナイケ首相を実現すると共に、その就任式に先立ち同首相をケラニヤテンプルに招き衆僧列座の真只中で「今度こそ仏陀の教えを遵奉し他国の勢力に屈せず、セイロン国民の幸福を樹立するあらゆる政策を実行せんことを仏陀の前に誓わしめた」と云う事実であります。私はこれらのセイロン僧侶の烈々たる愛国心と、仏陀への絶対帰依の捨身の下座行を見聞し、ひるがえつて私共祖国日本の仏教界及び僧侶の現況に思いを走らせ、全く感無量なることを禁じ得ませんでした。

かくて廿六日長井博士、前田総長と一諸に羽田に安着し、各方面の方々の温いお出迎えを頂き万感交々胸に迫るものを静かにおさえ乍ら自坊に落付いたのであります

各方面の御好意を感謝すると共に今後微力乍ら日本仏教興隆のため黽命の努力を尽すことを誓いつゝ私の御報告を終りたいと思います。

阿部竜伝（全仏事務総長）

ビルマ留学僧体験記

一昨年全日仏から派遣された十三名のビルマ留学僧の大半は帰国せられている事は既に御承知の事でありませう。私もビルマより印度仏蹟をお参りさせて頂き、ネパールで開催せられた第四回世界仏教徒大会にも参列、再び今度は三十名近くの全日仏代表団と共に仏蹟を巡拝させて頂くと云う幸運に恵まれ、結局全仏蹟を二度渡つて参りました。そしてカルカッタより英国船にて一月二十日ランゲーン、ペナン、シンガポール、香港と寄港し無事戻つてまいりました。一ケ年五ケ月我々が空路ビルマに趣きランゲーン、シンガポール空港で実に言語に絶する大歓迎を受けた事は既報の通りでありますが、我々がビルマに何をしに出かけたかと云う点に就て最初からビルマ仏教会側との間にくい違いのあつた事は明らかであります。到着早々から我々に八戒を守るべく押し付け様とした事やら、早く日本僧衣をぬがせて黄衣を着せようとした事など、是等の点は大した問題ではありませんがビルマ仏教会側は我々をビルマ比丘に養成し、テーラバーダ仏教の布教師として利用するつもりであつたにも拘らず我々の渡緬主旨と云うものが各宗派の立場から戒律に生きる「行」の仏教を体験し、体験を通じ日本仏教の乱熟した姿を何んとか民衆の中に生きる仏教に改善するブレーキにもなり、又反省する材料になればと云う趣旨で出かけたのではなかつたかと思うのであります

従つて日本僧衣のまゝビルマ僧の戒律実践生活体験が出来るものであつたなら何も黄衣をまとう必要もなかつたろうとも思うのですが、やはりその国の風俗、習慣に従うためにも安易であると云う点から手段として日本僧衣をぬいだのでありした。この様なくい違いを感じつゝもあへて口に出さず彼等の思い通りビルマ俗人から沙弥え、そして比丘になるビルマ人が一度は経験してるその習慣に従つたのでありました。沙弥の生活やら比丘の生活に就いては、私が改めて述べる迄もなく御承知でありませうが実際の僧院生活を上ビルマ、メミョー市のシュエージン派に属する寺で三ケ月間厄介になつたのでありますが、その生活から学ばせて貰つた事はやはり渡緬中一番つらかつたのではないかと思われます。毎朝裸足になつて托鉢をしたのも又沙弥と枕を共に三ケ月過した事は、全く予想もしていなかつただけあつて変つた収穫を得られた様に思います。且つ忘れられぬ思い出の一ページを作つた事は確かであります。まぶたに浮んで来る様であります。しかしこの僧院生活を若き年令のビルマ比丘等と過した中で人間的には、暖い温和な人が多数ありましたが、やはり常に残念でならなかつた事は彼等が日本仏教に就てあまりにも無智であり、しかも理解がなかつた事でありました。日本仏教の僧院生活に就て知つている事は唯妻帯する事、三食する事、観劇、遊戯等にふけつている事等の戒律を破つている点のみしか知つておらず、何等発展した日本仏教の高遠なる、人間性に自覚しての深い教えについては解つてない事でありました。果してどうしたら我々の信ずる仏の道を解つてもらえるかと自分の知つてい範囲を語りつくしましたが、現実に結ばれている

太いつながりはやはり一仏に帰依すると云う気持からだと解りました。勿論祖師仏教に生きる事は仏徒として喜ばねばならぬ事ではありますが、やはり仏に帰依する点では日本仏教徒はもう少し大きな広い眼で他の仏教国を眺めてほしいと感じました。この僧院には下は十一才位の沙弥から上は三十五六才の比丘迄約五十人程居りました。従つて中には二、三ヶ月だけ僧院生活をして、止めて行くのもあれば一生涯僧として過すものもあるわけです。特に私と同年輩、或は年上の比丘等と毎晩の如く語り合つたのですが日本の様に義務教育を受けているのでなく経典の暗記には若き血潮を燃やして張切つているのですが、常識としてこんな事は知つているだろうと思われる事でも解らぬ事もあり、日本に就て話した事等がすべて彼等には新しい智識となつて喜んで貰えました、こうした教育にも乏しい僧達、その反面同年輩の俗人達は高き教育を受けているにも拘らず僧としての教え導くと云う立場からはどうもその知識にとぼしい様に感ぜられました。私は或る時、この様な事を話したのですが、「比丘と云うものは民衆の苦しみを分ちその苦悩を自分自身で味わつて初めて本当の教えを説く事が出来るのだ。従つて我々も民衆と同じく教育を受け指導的立場に立つべく努力しその上に経も暗記し、教えも学ぶのが本当の道ではないか」と質問した際にも彼等が異句同音に答えた解答は「比丘は戒律を守る事によつて民衆にも尊敬されるのである。そうした俗人のやる事は僧がやる必要はない」と云つていたこの様な意見を述べた人の中にもやはり彼等はビルマに古くから行われている得度の習慣に従つているのみで何等精神的な修行は行われていると云う事を自覚している様に見うけられました。特に短期間の僧院生活を経験される方々には宗教的意味の修行は無理の様で有ります。私はこの様な若い比丘が若し日本へ南北仏教を理解するべく来て来れるものなら、何とか彼等の力になりたいと考えたりした事もありました。

ビルマ派遣日本笛学僧　五島　行宣

南と北

南北仏教交流ということに寄せて

矢放諫亮（派遣団長）

全日本仏教会が、一九五三年の秋、ビルマの首都ランゲーンで行われた才三回世界仏教徒会議に、七〇名近くの代表を送つて日緬仏教親善のはなやかな話題をまいた。その御土産の一つに、南北仏教の交流の手はじめに、日本から笛学僧をビルマに送つて、上座部仏教の真髄を体験せしめることの話合いがビルマ側とつき、幸いにも此の計画はビルマ側の心よく受入れるところとなり、越えて一九五四年の秋に至つて実現の運びとなり、日本の仏教々団に僧簿を有する青年僧の中から、ビルマ笛学を希望する者を各種導機関を利用して募集したのである。

その結果、一応十二名の青年僧と一名の青年尼僧とが選抜されて全日本仏教会派遣ビルマ笛学僧団を結成し、渡航の手続等を終えて一九五五年五月下旬空路羽田よりビルマに赴いたのである。すでに此の事は、読者諸賢も御承知のことゝ思う。

私は当時、此の笛学僧募集の報を聞いて、かねて私が疑問に思つていた戒律というもののあり方が南方の比丘僧団に於ては、その実際生活の上にどの様に行われているのであろうか、私自身それらを是非体験してみたいという念願もあり、かたがた末見未知の南方仏教々団で、一年なり二年を比丘として宗教生活を体験することは、私自身の今後の教団人としての宗教生活の上に大きな示唆と、得とするところがあるものと信じて年令的にはすでに青年ではなかつたにもかゝわらず、此の募集に応じ、団員の一人に選ばれて、渡緬したのであつた。

爾来或る人は滞在僅かに四ヶ月目に不幸病にたをれて帰国し、或る人は家庭の都合で九ヶ月目に、或る人は十ヶ月目に、満一ヶ年目にという具合に、十三名のうち十名がそれぞれ帰国されたのちも、私はさらに滞在をつゞけ、比丘としての雨安居も一期終了し、裸足で鉄鉢を持つて托鉢行も実修して、雨安居あけの昨年十月中旬、漸く一応の目的を遂げて、ビルマよりインドに渡り、仏蹟を巡拝し、ネパールの才四回世界仏教徒会議にも全日仏派遣の日本代表団の方々と共に参加させて頂き、去月二十日海路神戸に二ヶ年ぶりで帰国したのである。

ところが帰つて来てから、産経新聞その他の報導機関の伝うるところによると、当時笛学僧の一人であつた内田信也比丘が南北仏教交流釈尊正法会なるものを設立しその代表者となつて、全日本仏教会とは別個の立場で、ビルマ比丘僧伽を日本に招来し、パゴダや、僧院結界を建てゝ、ビルマ仏教の布教宣伝活動を日本に行うということであるので、内田比丘のビルマに於ける比丘生活の実体を熟知している私は大いに驚きもし且つ師の勇敢さにいさゝか瞠目させられているような次才でもある。

先ごろ全日仏より私に、南北仏教交流ということに就て、何か意見を発表しろとの通知をうけたので、以下私は、私なりに一年五ヶ月間ビルマ比丘僧侶団の一員としての体験と見聞をもとにしていさゝか南北仏教交流ということ、特にビルマ比丘僧伽の実体比丘の戒律生活の赤裸々な姿をありのまゝ卒直に述べたいと思う。

このことは、南方仏教、特にビルマ仏教を少しでも正しく理解し南北仏教のほんとうの交流ということが奈辺になければならないかということに多少でも役立たせたいためであり、且つ又日本の一部の仏教徒が、たゞ洸然と理解している如き戒律仏教純粋論の是正為のでもある。

先づ才一に私はビルマ仏教の比丘僧伽の実体を簡単に紹介しようと御承知の様に、ビルマ国の憲法には、一千八百万の全人口の九割までが仏教徒である仏教の優位性を他の宗教に先んじて国家的に保証していることがうたつてある。したがつて比丘の置かれている立場というものが、一応国家的にも保証されているわけである代りに比丘僧団に対しての国家的な行政干渉もあるわけである。例えば比丘の優劣をきめる国家試験もあり、長老比丘に大統領自らタイトルを与へて年金や交通機関の無料パスを与へるということも行われている。内閣には宗教大臣があつて、毎年の国庫予算の中から仏教団体や、仏教行事比丘僧伽への補助金等が可成り多額に支給されている。此の様な国家の行政管理下におかれている比丘僧団が、それならばそれだけの宗教家としての国家社会に対しての奉仕をしているかというと、これは全く期待に反するものであつて、私は西部ビルマ北部ビルマ中部南部のビルマの各市、町、村の僧院を歴訪してみたのであるが、僧院自余にしても比丘自力にしても、一つの社会事業らしいものもなければ、社会教化の為に努力している比丘にも遇うことが出来なかつたのである。

元来、比丘は、俗人が守ろうと思つていても守ることの出来ない戒律を、俗人に代つて守つているのが比丘であるのであるから、経典の暗誦理解と戒律の厳守のみが比丘生活のすべてであるわけである。社会奉仕や社会教化は僧の使命ではないのであるし、又その様な活動や事業をする事は戒律を犯さなければ出来ないようになつているのである。戒律を厳守する範囲内に於ては比丘は国家社会に対しての宗教家としての本分の遂行の為には全く手も足出ないという有様である。僧団の行事といえば国民のすべての仏教徒が一生に一度は必ず得度すると云う沙弥式や、具足比丘式に立会うことや、雨期入りや雨期明けの際行われる国民の仏教年中行事の際に臨席して経典を読誦すること位のものである。葬式を執行することもなければ回向に行くこともない。祖先を崇拝する思想もなければ、成仏を説く教理もないのである。素朴な因果観や、勧善懲悪を説いて輪廻転生を教えてはいるが、仏陀の真実の救いや教えを現実の人間生活の上に生かしていかねばならぬと説いて社会浄化に努力している比丘は殆んど見当らないのである。

（以下次号）

クリスマス島の原水爆実驗禁止と
沖縄問題に全日佛態度を打出す

去る八日午後四時より全日仏では『時局対策委員会』を招集して目下問題になつている左記問題に対して全日仏の態度を協議決定するため真剣なる討議を行つた。

1. クリスマス島水爆実験に対する仏教徒の態度
2. 沖縄問題について

去る二月廿三日日比谷音楽堂に於て全日仏を始め日青協、沖縄県人会、総評、全学連、全労、私学連、新産別、平和諸団体等の主催で『沖縄施政権返還国民大会』が行われた。本大会に於ては力強い各団体の叫び、現地沖縄県人の悲痛なる訴え等約七千の大衆は次才に高潮してきた空気の中で左の四スローガン貫徹の決意を固め且力強い決議を行つて政府、アメリカ大使館、極東軍司令部等へ夫々陳情を行つた。

四スローガン

一、沖縄施政権即時返還
二、プライス勧告、レムニッツァ声明反対、四原則実現
三、政府は沖縄県民の人権と生活権とを擁護せよ
四、日本九千万同胞の　で

◎ **クリスマス島**の原水爆実験反対の仏教徒の態度は勿論一般世論以上に明確なもので之に対して最近政府当局はクリスト教関係者を英国に派遣するのニュースが伝わつているが之は英国の宗教会殊に仏教会の実情を知らざるものとし、実験禁止に仏教者の立場より全面的に態度を表明した。

尚之が反対声明文を夫々関係方面へ送つて全仏徒の名に於て陳情した。（声明書次号）

出席者左の通り、椎尾弁匡、伊藤述史、赤松常子、浜田本悠、摩尼清之、阿部総長以下局部長。

◁ 会談座還帰僧学留マルビ ▷

南北仏教交流は これでよいか

全日仏では去る二十二日十三時より東京日比谷のレストラン朝日に於てビルマ留学僧帰還祝賀を兼ねて留学中の体験発表懇談会を開いた。当日は全留学僧に招請状を発したが生憎種々の都合で出席者は矢放諫亮団長、五島、白幡の三師だけであつたが約三時間に亘つて留学中の諸体験に就て各師より交々発表が行われ終始和気あい／＼の内に仲々真剣な懇談が進められ将来に対して益するものが沢山あつた。当日の懇談要旨左の通り。

1. 今回の留学に関してはその当初に於て受入側のビルマ仏教会と送り出す全日仏の双方に留学の目的、留学後の処置等に関して意志の疏通を缺くものがあつたようだ。従つて今後はこれらに関して更に慎重な研究と準備とを整える必要がある。
2. 南北仏教の交流に就て

我々の体験から考えても目下の処ビルマ側の意向は日本側の考えていることゝ大分のギャップがあると思われる。故にこの点を更に明確にたしかめずにやると結果に於ては反つて国際親善に意外の反響をもたらす事になるのではないか。目下我々留学僧の一部の者が中心にやつている「正法会」問題も我々としては大いに意見があるので、この際「正法会」関係者も充分反省して慎重な態度でことを進めて欲しいと希望している。これに対する詳細な事は別記するが全員が全日仏の派遣留学生として修業し帰つて来ているのに我々の仲間が分裂している様な事実は誠に遺憾であるし且今後の南北仏教交流親善の面に非常な影響をもたらすものであるから全日仏も更に正法会問題に突つ込んだ態度をとつて大いに指導的役割を果してもらいたい。

殊に正法会の招請で昨年日本へわざ／＼南方仏教の広宣にやつて来られたウー、ティテラ・ウー、ニヤヌッタラの二比丘が来られた方の帰国後の言動を見聞しているのですが、むしろ日本仏教の長所を充分理解出来てむしろ賞讃している情況である。故に必ずしも正法会の人々が云う如く日本仏教はビルマ仏教の移植なくしては崩壊してしまう、という観察は危険であるとビルマの有識者や相当の僧侶達は認識して来た様である。従つて益々南北仏教交流と云う事を根本的に考究して継続的組織的の交流を願いたく、ハッタリ的の一時的スタンドプレーをやる事を充分戒心してもらいたいと思います。

ヴエトナム難民救援募金特別演劇公演盛大に開催

ヴエトナム協会（会長下中弥三郎氏）では、ヴエトナム難民百万人救援運動の一環として全日仏後援のもと、去る三月八日午後六時から日比谷公会堂に於て石井漠バレー団その他の出演の下、ヴエトナム難民救援募金特別演劇公演を開催した。右特別公演はヴエトナム協会の主催で外務、文部、通産の各省、東京都が協賛し、全仏は朝日新聞と後援した。当日は「人間釈迦」ほか傑作多数が上演され満場の拍手を受けた。

なお当日はアメリカ外各国大使が参列したが全仏からも各局部長が出席した。

ビルマ僧三百名へ 全仏より贈物

今回ビルマのチャッタサンガヤーナに於ける仏典註釈之部の結集が全部終了するので、各仏教諸国より約三百名のビルマ比丘に対して各種の土産物が贈られているが、全仏では二月上旬横浜港発の船で全仏からの土産品を送付した。

全仏から各大使へ 記念品を贈呈

去月下旬東南アジア公館長会議が東京で催された際来日した、結城駐セイロン大使、吉沢駐インド大使及高野駐カルカッタ日本総領事官の各氏へ種々御世話になつているので本会として謝意を表明すべく、岩野組織局長が夫々自宅へ訪問敬意を表し記念品を贈つた。

インド大使官邸で 憲法制定記念祝典

一月廿六日午後四時よりインド大使官邸に於てインド国に憲法が初めて制定され、協和国として新たに発足した祝賀式が、岸外相以下各国大公使等参列の下盛大に挙行された。全仏から岩野組織局長などが出席した。

ネパール仏教会へ 仏教徒パッチ送付

全仏ではネパールカトマンズ市のダルモダヤサバー仏教会より、過般才四回世界大会の時我が代表が胸につけていつた仏教徒のパッチの寄附方を要請されたので過日航空便で同パッチ百個を送付した

章嘉大師逝去

中華民国仏教界重鎮で且蔣総統政府政治顧問として活躍中の章嘉大師は去年末国立千葉病院へ胃癌手術の為入院治療し本年初頭台湾へ帰国して治療していたが、三月に入り急激に病状悪化し遂に三月四日正午過ぎ逝去同八日台北善導寺で告別式が行われ同十一日茶毘に附された。同活仏の死は特に台湾仏教徒渇仰の的であるだけに大い悼まれているが、全日仏としても取急ぎ弔電を送つた。

あとがき

◇最近全日仏に対する批判は仲々手きびしい。吾々関係者は静かに反省をしている。只それが批判のための批判で結極するところ建設的の部分が少いのは遺憾とするところ。殊に南北仏教交流問題を始め幾多の事で誤解？も大分ある様だ。◇その一々に付て今の処弁解はしない。やがてわかることだ。特定の一二の人を傷つける事は吾等のしないところ、今しばらく時の経過をまつて欲しい◇正法は必ず輝く事を信じている。只吾々の怖れることは仏教が社会大衆と日一日離れつつあることだ。目下の処之が妨止運動に全機能をあげて精進せねばならない。◇内部で相互に傷つけ合う余裕などある筈もない、只々全能力の結集以外に何ものもない。天に向つてツバをはく事を止めて黙々と前進あるのみだ。全日仏不用論を云う者は誰もいない、問題は之を運営する人と機構の問題だ。着々と再出発の準備が出来つつある事を銘記して、全国仏教徒の一層の御協力を乞うこと切なるものがある。（た）